

讃岐かがり手まり

SANUKI KAGARI TEMARI

手まりは、平安時代に中国より伝えられたと言われており、子供の遊び道具として愛され、時代を経るうちに我が国独特の美しい文様が考案されました。香川の手まりは、讃岐三白(塩、砂糖、綿)のひとつ、綿の糸を草木染めし、ひと針ひと針かがりながら、艶やかな幾何学模様を描き出します。現在では天然香料入りの手まりなども作られています。

讃岐かがり手まり保存会：上から 野菊 28,000円 / 十二菊かがり 28,000円 / 南天 8,000円

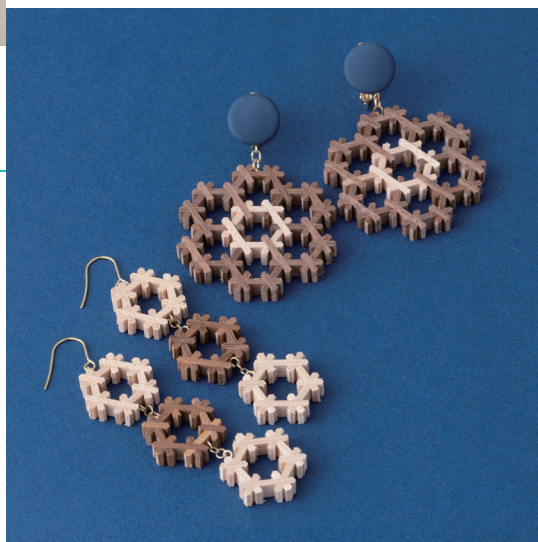


高松張子

TAKAMATSU HARIKO

高松市の鍛冶屋町では、昔からデコ(人形)作りが盛んでした。その一つ、粘土や木の型に和紙を張り重ねて作ったものが張子と呼ばれ、江戸時代、松平頼重が讃岐高松藩に入る際に製法が伝えられたとされています。重病のお姫様の病気を自分にうつし島に流されて亡くなった「おまきさん」の伝説にちなんだ「奉公さん」は、ほのぼのとした表情で、多くの人に愛されています。

張子工房ウスイ：左から 奉公さん 小 1,300円・大1,800円 / ねむり猫 1,400円 / 赤鬼さん 3,000円



組手障子

KUDE SHOJI

建具職人から生まれた組手(くで)のアクセサリ。組手とは、接着剤や釘を使わずに、手作業で複雑な幾何学模様を組み上げていく伝統技術です。現在、障子は建具店で作られますが、細かい作業を要する組手細工の部分は、高い技術を持つ熟練した組手職人が作っています。

森本建具店：右から 角亀甲イヤリング花 8,000円 / 角亀甲3連ピアス 5,800円



庵治産地石製品

AJI SANCHI ISHI SEIHIN

香川県の伝統的工芸品に指定されている庵治石(あじいし)。高松市の東部に位置する山一帯が花崗岩層からなる「五剣山(ごげんざん)」の麓、牟礼町、庵治町は、平安後期からの石材業の歴史を持つ土地です。採石の歴史は、遠く平安時代にまでさかのぼり、江戸時代に高松藩の御用丁場となったことから急速に発達しました。彫刻家イサムノグチに絶賛されたことで世界的にも高い評価を得ています。2012年に産地の意欲のある石工職人らと「暮らし寄り添う庵治石」をコンセプトに「AJI PROJECT」をチームとして立ち上げました。「石の素材感」を残したシンプルなデザインで、「石のある暮らし、空間」を提供しています。

AJI PROJECT : POUND 4,900円

讃岐のり染

SANUKI NORISOME

大胆な柄と鮮やかな色彩「讃岐のり染」の帆布製トートバッグ。獅子舞油単(人がかぶる布)に使われる伝統的な牡丹の柄を大胆に使い、ドットと組み合わせることにより現代風に仕上げられています。

「讃岐のり染」は、もち米で作られた防染のための糊を、筒描きや型紙で図柄に沿って置き、藍がめにつけたり、刷毛で引染めたりして、仕上げます。江戸時代、高松城下の紺屋町は染物屋が軒を連ね、藍染めを中心に野良着や着物が作られました。

大川原染色本舗：Tote 牡丹 グレー中 16,500円・紫小 15,500円



獅子舞油単

香川は、全国一の獅子舞王国で、およそ800組の獅子組があるといわれています。その獅子舞を艶やかに彩る油単(ゆたん)にも、香川ならではの特徴があります。香川の獅子舞油単は、武者絵や龍、虎などの人気柄や伝統の毛模様などを高価な絹生地に色鮮やかに染め上げるというもので、他県には無い貴重な讃岐特有の工芸品といえます。